

「アゲハの幼虫立体模型」(3年)

C ; 「先生、アゲハの幼虫は昆虫じゃないよ。だって足が6本よりもずっと多い。」

T ; 「じゃあ、アゲハも昆虫じゃないの？」

C ; 「ううん、アゲハは昆虫。足が6本だから。サナギから出てくる時に昆虫になるの。」

なるほどこれは面白い見解です。私はアゲハの昆虫をもっとよく観察させる必要性を感じました。しかしアゲハの幼虫の「好き嫌い」には個人差があります。女の子でも鼻や耳に載せるほど好きな子もいれば、教室の中に幼虫の虫かごがあるだけでも恐怖を感じている男の子もいます。幼虫の数も、研究所(班)の数揃うとも限らず、なかなか平等に観察するのが難しいのです。

写真を配って見せるテもありますが、どうも平凡な資料学習に終わってしまいます。そこで、前回のサナギ模型に引き続き、「アゲハの幼虫立体模型」を作らせることにしました。幼虫の立体模型というと、紙粘土で作るのが一番良さそうです。しかし私は、実物幼虫の写真を背中合わせにした型紙を渡すことにしました。「鱈の開き」ならぬ「幼虫の開き」です。



【作り方】

- ①型紙をはさみできれいに切り抜く。
- ②尾の部分を除き、セロテープで貼り合わせる。
*できるだけ小さく切ったテープで細かく貼ると良い。
- ③尾の部分から、ティッシュを入れて、鉛筆で押し込む。
- ④形を整えて、尾も閉じる。

私が一つ作ってみせると、子どもたちの反応は意外でした。

「かわいいー！！」「ムーミンみたいー！」

頭の模様が目のように見えて、かわいらしい印象を与えているのでしょう。気持ち悪がる子は一人もなく、夢中で取り組んでいました。子どもの感想からも、私は多くのことを学びました

【子どもの感想から】

- ・すごくかわいい。本物も見つきたいです。ミカンの木にいと友達が言ったので、ミカンの木にいます。いたら、大せつにもってきます。(やや意味不明でおもしろい)
- ・はさみで切る時に、よう虫の形がよくわかった。足みたいなきゅうばん(吸盤)がたくさんある。
- ・りっ体てきに作るのが、すごくむずかしかった。あたまを少しもちあげたしせいにしたら、たおれずに立っていた。
- ・私は、よう虫がおこった時に出す、きいろのつのもつけました。本物っぽくなりました。



型紙を切り抜いて
一生懸命に作る子



角付きのアゲハの幼虫模型。支えなくても自立しています。

(3 ページ目) 幼虫ペーパークラフトの型紙。A3の普通紙(上質紙)に印刷して、裁断後配布します。

*本物の幼虫を撮影して制作しました。

*実物の終齢幼虫よりも、長さで約2倍の大きさです。細部の特徴もわかります。

